

は日御子村とす。さて乗龍寺は右神社の社僧にて、則ち日御子村の社地に居住せしが、寛永十九年に金澤へ出で、金澤東照宮の加役僧と成たりしかど、檀家は僅五家ならで無之故に、永々無住にて維持の目途無之に付き、寺院を取毀ち、本寺西養寺へ合併して寺號のみ存せしを、明治三年の頃更に寺號をも廢止に成りたりとぞ。

○妙義谷

乗龍寺の寺跡の傍なる谷にて、今も妙義谷と呼べり。則ち西養寺の鐘樓堂の下なる谷也。

○卯辰妙義社

此の妙義權現は乗龍寺の鎮守にて、乗龍寺此の地にありし頃、上野國妙義山より勸請すといひ傳へたりしが、乗龍寺を取疊みける時より西養寺に安置せり。妙義權現は上野國妙義山にて、彼の菅相丞の時の法性坊尊意僧正の靈を祀り、靈異甚敷きゆゑ世人殊に信仰して、乗龍寺に鎮座ありし頃は甚だ繁昌し、その谷をも妙義谷と呼べりといへり。又此の乗龍寺には、蓮如上人笈の彌陀佛とて木像あり。此の佛像も妙義と同じく世人信仰せしかど、今は故ありて越中今

石動の寺庵へ移せりといへり。扱金澤佛傳記に、卯辰新町は百姓地にて、町奉行所の支配地なれども、米地子にて難澁者多かりしかば、渡世の爲め此の所にて芝居興行の事を出願すといへども聞届なかりしに、綿津屋政右衛門毎度願上ける處、妙義と申す所にて聞届相成、芝居小屋を此の所に立てたるよし記載せり。右妙義は則ち乗龍寺妙義の地邊なるべし。文政頃の事也。

○本源山龍國寺

曹洞宗也。貞享二年の由來書に云ふ。當寺開基、慶長三年養傳長老と申す僧、金澤公儀町に於て而建立致し、寶圓寺之末寺也。然處萬治二年、小松附之諸士金澤へ引越に付、公儀町之寺地御用地に被召上、其後中絶之處、寛文十一年寶圓寺八代虎白和尚被願出、卯辰山之内地子地申請再建仕、至于今卯辰地子地に罷在。と記載し、外に來歴無之寺院なりといへり。

○光明山立圓寺址

其の遺跡は龍國寺の南隣の地なり。立圓寺は法華宗京都立本寺の末寺なり。其の來歴は貞享二年の由來書に、當寺開

基、慶長七年圓珠坊日英与申僧建立致し、同年日英立圓寺之寺號申請、本寺立本寺之補任狀所持仕。寺屋敷地子地に罷有。寛永二十年本寺日遙上人より曼荼羅申請。とあり。然るに檀家些少にして、維持の目途無之無住寺に付き、明治十八・九年比破却せりとぞ。

○妙蓮山眞成寺

法華宗也。延寶九年の由來書に云ふ。當寺開基、能州瀧谷妙成寺十五世日條聖人、正保四年於能美郡小松建立。二十人町萬中屋太郎兵衛地を申請居住有之處、微妙公薨逝以後、旦那之諸士金澤へ被引越に付、寺永續難成故、萬治二年金澤へ罷越、十三ヶ年之間借屋致し居、先寺社御奉行迄訴訟申上、寛文十一年四月卯辰山寺續之所百二拾歩請地被仰付。と記載す。

○鬼子母神

眞成寺の鬼子母神とて、世人信仰せり。縁起に云ふ。此の鬼子母神は、昔小松の城主丹羽長重の時、城中に安置せられし尊像にて、長重殊之外尊崇せられたりしが、妙成寺十五世日條聖人小松に居住ありし頃、長重深く歸依せられし

餘り、彼尊像を日條聖人に依託し給へり。然るに萬治二年六月金澤へ寺院を移せしゆゑ、此の尊像も金澤へ遷座なし奉り、于今當寺に安置す。と載せたり。

○中村歌右衛門墓碑

眞成寺の境内にあり。其の碑石戸室石を以て築きたり。甚だ大なる碑石にて、金澤市中にて此の碑を最第一とすといへり。碑文如左。

大阪優人元祖中村歌右衛門者。本州金澤府醫生大關俊安子也。少字柴之介。其爲人也。放縱不效讀者。攻鑿出任本藩麾下之士。後去遊于平安于浪華于東都。流寓多年。終爲梨園弟子。而家于大阪。未幾技藝大進。當一時選矣。寛政三年辛亥冬十月二十有九日。病死于家。享年七十有四。葬之城南正法寺園塋。初柴之介奉法華深矣。其去國也。負北辰之像一軀。而流寓中安置之江府深川淨心寺。既而拜禱。且曰。奉有日矣。若靈威不虛。則令鄙名發三都下。不然則終身與尊像共朽而已。顯晦唯有冥慮。誓而去矣。後果如其言。至今香火熾矣。嗣子二代中村歌右衛門者。受紹箕裘。賦性聰敏。伎藝所弗能焉。是以聲名鳴於都鄙。頗有絕伎稱云。